

## 乳児クラスの保育より(2)

# 一歳の誕生日

田辺 敦子

「おはようございます」

その日の保育は、丁ちゃんのお母さんのとびきり弾んだ挨拶から始まりました。いつもに増して張りのあるその声と嬉しそうな表情を見て、出迎えた私も嬉しくなり、自然に声のトーンが高くなりました。

「おめでとうございます」

そう、その日は丁ちゃんの誕生日だったので。

クラスで一番低月齢の丁ちゃんとあって、その一歳の誕生日は、クラスの子どもたちみんなが一歳になるという意味も含んだ記念すべき日でした。

「一歳になるなんて信じられないけれど、これでもやっとみんなの仲間入りですね。明日のお休みは、お祖母ちゃんの家に行ってお祝いをしてきま

す。一升餅を用意してくれているらしいので、むりだとは思うけれど挑戦してきますね」

笑いながらそう言うお母さんの言葉からは、Jちゃんの誕生日を心から喜ぶ家族の様子がよく伝わってきました。誕生日は誰にとっても嬉しいものですが、とりわけ一歳の誕生日というのは、家族や周りにとっても大きな喜びとなる特別な日です。そして、その喜びを家族の方と共感することは、私たち保育者にとっても嬉しいことです。

さて、子どもが生まれてから最初の一年は、周りの大人が注意深くその子の健康と安定した育ちを守っていかねばなりません。例えば、赤ちゃんにとってとても重要な仕事である「泣く」という行為ひとつをみても、その都度その子が何を言わんとして泣いているのかしつかり受け止め、「ああか、こうか？」と受け返していく作業が日々くり返されます。勿論それらのやりとりの積み重ねが両者の絆

を確かなものにしていくのだと思いますが、その子が真に家族の一員になっていくまでには、お母さんやお父さんにとっても修行の日々なのではないでしょうか。ですから一歳の誕生日のお祝いは、みんなが二人三脚で進んできた一年間へのご褒美という意味合いも持っているのでしょう。

更に、週明けのJちゃんの育児日誌（家庭と保育園とを結ぶ連絡ノート）に記された文章や送迎時の様子からは、お母さん自身の心の変化も感じ取ることができました。

『…週末は祖父母宅で楽しく過ごしてきました。一升のお餅は背負うことができませんでしたが、夢中で触って柔らかい感触を楽しんでいました』  
これまでの一年間を必死にJちゃんと向き合ってきたお母さんでしたが、一歳の誕生日を無事に祝えたことが嬉しく、そのことが同時に安心感や精神的なゆとりにも繋がっていったのかもしれない。

『一歳の誕生日』には、きっと何か特別な魔法の力が働いているのでしょうか。

ところで、成人式を迎えた二十歳の人へのインタビューで、よく耳にするセリフがあります。

「今日からは、社会人のひとりとして自分の行動に責任を持っていきたいです」

周りからの祝いの言葉や期待に応えようとする強い意志のあらわれなのでしょう。私も自らの成人式を振り返ると、やはり彼らと同じように新鮮な気持ちで未来への大きな希望を抱いていたように思いません。

『昨日までの自分とどこが違うのか、それを言い当てることは難しいけれど、何もかもが新鮮で、今の自分なら何でもできそうな気がする』という心境でした。

一歳の誕生日を迎えた子どもたちと接している



と、何かがはじけたような表情の明るさを感じることもあります。その様子は、成人式を迎えたばかりの若者のように力強く、輝いています。きっと子ども自身も、大人からの褒め言葉や励ましが、自分に向けられた愛によるものだということを肌で感じ取っているでしょう。この時期は、大人のねがいと子ども自身の『大きくなりたい』『あれがしたい、これがしたい』という意欲とがバランスよく響きあう瞬間なのかもしれません。

私的なことになりますが、実は先日ちょっとした

腰痛になり、動きに気を配らなければならないことがありました。慢性の腰痛になっては困るので、普段ならたやすいことも、その時はやはり少し慎重に行うことにしました。勿論そのことは胸のうちにあっただけなので、実際の動きを制限したわけではありません。ところが驚いたことに、一呼吸おいて

から動作に移ろうとする私を前にして、子どもたちは実に能動的な姿を見せてくれました。中でも担当児のYちゃんにはびっくりしました。Yちゃんはまだまだ歩行が不安定な為、長さのある移動の際にはよく抱っこをしていたのですが、このときは私が抱き上げることを待たずにゆっくり歩き始めました。せっかくなので、私もYちゃんが歩く様子をそのまましばらく見守ることにしたのですが、真剣な中に見られる意欲的なその表情は、自分の力を信じて進もうとする頼もしさに満ちていました。そして、目的の達成を私が褒めると、嬉しそうに笑っています。

た。日頃から子ども一人ひとりの成長をしっかりと捉え、見通しを持った関わりになるよう心掛けていますが、それでも子どもの成長の方が上手だったことに改めて気づかされ、貴重な経験をする事ができました。

今私たちのクラスは、Jちゃんの一歳の誕生日を境に、一歳児集団へとステップアップしました。その成長を喜び合いながら、これからやってくる自我の芽生えの時期を安心して迎えられるよう、今この時期の保育を丁寧に行っていきたいです。そして、大きく伸びていこうとする子どもの意欲をしっかりと受け止め、好奇心もまた引き出していきたいです。

(かしのき保育園)